

【情報公開文書】

2022 年 6 月 24 日作成

Ver.2.1

研究課題名	DNA 損傷応答分子 p53 binding protein 1 (53BP1) による病理・細胞診断精度の評価
所属（診療科等）	長崎大学原爆後障害医療研究所 原爆・ヒバクシャ医療部
研究責任者	松田 勝也 （助教）
研究機関	この研究は長崎大学原爆後障害医療研究所 原爆・ヒバクシャ医療のみで実施します。
研究期間	2021 年 10 月 19 日～2028 年 3 月 31 日
研究目的と意義	がんの最終診断は病理組織学的に実施されます。これを病理診断と言います。病理診断は形態学的診断法であるため、診断者間の経験年数や専門分野に依存していて、良悪性の鑑別診断が困難な場合も多く、腫瘍の悪性度を評価するための客観的な補助的診断法が必要になる場合があります。一般的な補助的診断法として、がん細胞に特異的に発現する様々なタンパク質を免疫組織化学という方法で調べますが、現在、悪性度推定のための汎用性が高く高精度な診断マーカーはありません。また、がん細胞での特異的な遺伝子変異を調べて診断する方法もありますが、費用と時間がかかるため、日常的に広く実施するには至っていません。私どものこれまでの研究で、p53 結合蛋白質 1（53BP1）という分子が、がんの悪性度を評価するための汎用性が高い新規診断マーカーになる可能性が高いことがわかってきました。本研究では、多くの臓器のがん組織（細胞）による 53BP1 の発現解析を行い、がんの悪性度が高精度に診断できるかを確認します。この方法は既存の補助的診断法とは異なり、前がん状態の段階から細胞の状態を把握することが可能で、安価で簡便な補助的診断法として臨床応用が期待できます。
研究内容	●対象となる患者さん 2000 年 4 月 1 日から 2021 年 3 月 31 日までに、本院で以下の臓器のがん（口腔、咽頭、喉頭、食道、胃、大腸、肝臓、乳腺、甲状腺、腎臓、尿管、膀胱、皮膚、胸腹膜、肺）と診断され、細胞診検査、組織生検、手術を受けた患者さんのうち、本院に検体が保存されている方が対象です。 ●利用する情報／試料（検体） ・情報：年齢、性別、職業歴、家族歴（血縁者の腫瘍罹患の有無とその疾患名）、飲酒・喫煙歴、検体採取日、病理診断名、病期分類、細胞診検査結果、治療経過 ・試料：細胞診検体、生検および手術で採取されて保存されている病理標本（すべて最終診断後の残余検体を使用します。研究のための採取は行いません。）

	本研究で利用する情報について詳しい内容をお知りになりたい方は下記の「問い合わせ先」までご連絡ください。 ●研究の概要・方法 上記の試料を用いて免疫組織細胞化学的に 53BP1 発現型解析を行います。また試料からがん細胞での遺伝子変異も解析します。これらの結果から、53BP1 発現解析が“がんの診断”に有用な新規バイオマーカーになるかを評価します。 本研究では、がん細胞での遺伝子異常や染色体異常を解析します。対象の遺伝子はがん細胞に後天的に出現する遺伝子変異のみを対象としているため、患者さんや、血縁者に重大な影響を与えるような遺伝子が発見されることはありません。本研究による解析結果は、患者さんの診断や治療に影響しないため、研究対象の患者さんには提供されません。
問い合わせ先	【研究担当者】 氏名：松田 勝也（助教） 長崎大学原爆後障害医療研究所 原爆・ヒバクシャ医療 住所：長崎市坂本 1 丁目 12 番 4 号 電話：095（819）7107 FAX 095（819）7108 【ご意見、苦情に関する相談窓口】（臨床研究・診療内容に関するものは除く） 苦情相談窓口：医療安全課 095（819）7616 受付時間：月～金 9：00～17：00（祝・祭日を除く）